

講座

# Web 広告

村山 哲治

## テレワーク環境下での Web 会議システムの 導入ポイント

### ■テレワークが進む中で必須ツール となった「Web 会議システム」

新型コロナウイルスの感染拡大からいまだ終息のめどが立たない中、企業においてはテレワークの導入が急激に増えています。カオナビHRテクノロジー総研の調査によると、首都圏では52.2%、全体では35.5%の実施率と発表されていました。実施の状況としては業種や地域格差もあるようですが、おそらく1年前と比べたらずいぶんテレワークが浸透したといえるのではないのでしょうか。

実際行ってみると不便なことも多々ありますが、案外こうした環境でも仕事は回っていくものです。その中でもテレワークで懸念されていた打合せや会議、営業、セミナー、研修といったフェイスツーフェイスで行っていた直接的なやり取りをどうするかという問題も Web 会議システムによって、ほぼその目的を達成することが分かってきました。

コロナによる自粛が始まる以前から、Skypeやテレビ会議システムはありましたが、それらはいくまでも直接会えない状況での補完的なものであったり、内部での限定的な使われ方であったりと、ビジネスの一般的なツ

ールではありませんでした。

しかし、否が応でも Web 会議システムを使わざるを得ない状況となり、そのツールのひとつである Zoom が急速に活用されはじめ、子供から大人までが飲み会やおしゃべりのようなプライベート利用から、打合せやセミナーまでもがこれで行われることが認知されると、わずか数か月でこの Web 会議システムはビジネスの必須ツールになりました。

### ■まずは Web 会議システムの特徴を知る

この Web 会議システムは急場しのぎのツールではなく、認知が広がりビジネスでも使えることが実証されたことから、おそらくアフターコロナの環境下では直接会わずにコミュニケーションできる場合のツールとしての利用がビジネスのスタンダードになると思われます。ただ、自社で Web 会議システムを導入する場合、何に注意したら良いのか、セキュリティは大丈夫なのか、年齢や職種に関係なく誰もが使えるのかなど、導入にあたってはさまざまな不安や疑問が多いのではないかと思います。

Web 会議システムは Zoom の他にも無料で使えるものから有料のものまで数多くあるため、まずはその特徴やメリット・デメリットを理解したうえで自社のビジネスシーンに適したツールを選択することが重要となります。

#### <メリット>

- 交通費、移動の時間を削減できる
- 運用コストが安い
- 柔軟な働き方が可能となる
- 会議室や配布資料の準備が不要

#### <デメリット (注意点)>

- 音質や画質が通信環境に左右される
- 利用人数の制限がある
- セキュリティー面でリスクがある
- 発言や反応の仕方と、読み取り方が難しい

こうして考察してみると、メリットは既存のコミュニケーションを Web 会議システムに置き換えた場合、業務の観点からの効果や効率が見込まれるものが多く、デメリットは利用するシステムに依存する点が多いことがわかります。特にデメリットとしてあげたことについては、選択するツール次第でずいぶん

サービス名	Zoom	Microsoft Teams	Google Hangouts Meet	Skype for Business	Whereby	Live ON	bellFace	Facebook Messenger Rooms
専用アプリなしで利用可能	○	○	○	×	○	○	×	○
ログインの有無	管理者のみアカウントが必要	管理者のみアカウントが必要	管理者のみアカウントが必要	全員アカウントが必要	管理者のみアカウントが必要	管理者のみアカウントが必要	全員アカウントが必要	管理者のみアカウントが必要
複数人数参加(何人まで)	最大100人まで(無料プランの場合)	300人(無料版の場合)	最大10人まで(無料版の場合)	最大250人まで	最大4人まで(無料版の場合)	通常会議では最大20拠点まで	無制限	最大50人まで
画質・音質	○	△	○	○	△	○	○	◎
画面共有	○	○	○	○	○	○	○	○
チャット	○	○	○	○	○	○	×	×
モバイル対応	○	○	○	○	○	○	○	○
パスワード設定	○	○	×	×	○	○	×	×
アクセス履歴	○	○	○	○	×	○	○	×
セキュリティ	・コンテンツの暗号化 ・情報漏洩対策 ・参加制限	・通信の暗号化 ・条件付きアクセス	・通信の暗号化 ・音源と動画データの暗号化	・通信相手の制限 ・通信の暗号化	・会議室にロックがかけられる	・コンテンツの暗号化 ・独自の通信プロトコル	・通信の暗号化 ・AWSの利用	・Roomをロックできる ・通信の暗号化 ・参加者を強制的に切断
有料版価格	2000円/月～	540円/月～	600円/月/人～	900円/月～	9.99ドル/月～	初期費用：78,000～3000円/月～	同時接続数により月額料金が異なる	無料
対象	企業向け/個人向け	企業向け/個人向け	企業向け/個人向け	企業向け	企業向け/個人向け	企業向け	企業向け	個人向け

改善できる点もあるため、現在どのようなツールが使われているか代表的なものの特徴をつかんでおくことが必要かもしれません。

## ■ツールの選択ポイント

私もこの自粛中にテレワークをする中でZoomをはじめさまざまなWeb会議システムを利用する機会がありました。すると音声や画像が安定しているものもあれば、便利な機能が使えるなどツールによって特徴があるようです(上表、引用：Roboma)。

Web会議システムを導入するには、どのような観点で選択すればよいのでしょうか。

それには次のような点があげられます。

- ① 活用の目的を明確にする
- ② 必要な機能の装備
- ③ セキュリティー
- ④ 画質と音質
- ⑤ 使いやすさ

自社で導入する際に、まずは何にどのような効果を得るためにWeb会議システムを活用するのか、その目的を明確にする必要があります。そしてそれに必要な機能やツールにはどのようなものがあればよいかを洗い出せば、ほぼ最適なツールが見つかるはずです。

そのうえで類似するツールを選択する判断材料として、不正アクセスやデータの暗号化などに対応しているかといったセキュリティー対応状況を見るとよいでしょう。Web会議システムには無償版と有償版がありますが、やはり無償版は脆弱なものが多く、企業で導入するのであれば有償版を使いたいところで

す。有償版のほうが画質や音声が良くなるというものもあります。

## ■ネットとの親和性の高さから活用範囲は広がる

私は次に挙げたすべての活用シーンで利用したわけではありませんが、商談やミーティングは互いに資料を見ながら、書き込みなども共有するなど非常にスムーズで、いままで20分程度で用件が済む打合せに往復1時間かけていたのがとても非効率に感じたほどです。

### <社内での活用>

- ・内部スタッフとのミーティング
- ・拠点のスタッフとのミーティング
- ・現場とのミーティング
- ・社員研修 など

### <外部への活用>

- ・商談や打合せ
- ・説明会・セミナー(商品/採用)
- ・顧客サポート
- ・マーケティングリサーチ(グループインタビュー)

現在はまだミーティング手段としての活用が中心だと思いますが、Web会議システムの特徴はネットとの親和性の高さから、データの共有やログの取得、他のアプリやシステムとの連携がしやすいことから、MAツールと連動して営業の効率化を図ったり、Webの顧客サポートをシームレスに行ったりといった活用が今後広がるものと思われます。

(東京ドアーズ/人間力教育センター代表)